

第 63 回数理社会学会大会

ワンステップアップ・セミナーのご案内

第 63 回数理社会学会大会前日の 2017 年 3 月 13 日（月）に、ワンステップアップ・セミナーを下記の要領で開催します。大林真也会員を講師とし、分析社会学について考えます。会員・非会員を問わずどなたでも参加できますので、奮ってご参加ください。

1. 題目

分析社会学入門：理論研究と実証研究の架橋

2. 講師

大林真也（東京大学大学院経済学研究科・日本学術振興会特別研究員 PD）

3. 日時

2017 年 3 月 13 日（月） 15:30～17:30

4. 会場

関西大学千里山キャンパス 第 3 学舎 A401(B)

5. 内容

近年、ヨーロッパを中心に「分析社会学（Analytical Sociology）」が注目を集めています。分析社会学は、①ミクロな相互作用やネットワークに着目しつつ、②理

論志向の経験的研究（theory-guided empirical analysis）を行うことによって、③マクロな社会現象のメカニズムを解明する、という 3 つの大きな特徴を持っています。したがって、理論研究と経験的研究を架橋する知的運動という側面を持っています。このセミナーでは、分析社会学という知的運動は何なのか、どのようにすれば分析社会学的研究ができるのかということを、理論的・実践的なレベルの両面から整理していきます。

6. 目標

分析社会学の基本的枠組みと具体的な研究を紹介します。分析社会学の特徴・利点・問題点を整理します。そのうえで、実際に「理論志向の経験的分析」を行うにはどうしたらよいかを、皆さんと考えつつ論点を整理することを目標とします。

7. 扱う項目

①理論・枠組み：分析社会学の基本的な枠組みを紹介し
ます。それにより、分析社会学が社会学の中でどのよ
うな位置を占めている（占めうる）のか、数理・計量
社会学にとって分析社会学はどのような意味を持つの
か、などを整理していきます。

②具体的な研究：分析社会学的研究の具体的例を紹介す
ることを通じて、分析社会学的研究とは何かというこ
とを整理していきます。それにより、「理論志向の経
験的研究」の意味することや、具体的な分析の道具に
は何かが必要になるのかを整理していきます。

③実践：①②を踏まえて、「自分が分析社会学的研究を
行うにはどうしたらよいか」という視点から、分析社
会学を整理していきます。それにより、数理・
計量社会学をどのように応用・組み合わせればよ
いのか、を考えていきます。

④議論：分析社会学の基本枠組みや具体的研究には、議
論の余地が多く残っており、論争になっています。私
自身、真性アナソシストというわけではありませんの
で、フロアの皆さんで議論して論点を整理しつつ、考
えていきましょう。

8. テキスト

特になし

9. 参加費

無料

10. 定員

特になし

11. 参加資格

会員・非会員を問わず、どなたでも参加できます。

12. 申し込み

電子メールで第 63 回大会申込専用アドレスまでお申し
込みください。jams63entry[at]gmail.com（[at]はアット
マーク）。タイトルを「JAMS63 セミナー申込（お名
前）」として、本文に「1 氏名」「2 所属と職名（学
年）」「3 会員・非会員の別」「4 このセミナーで得た
いこと・セミナーで取り上げてほしいトピック」を記入
のうえ、2017 年 3 月 6 日（月）までにお送りください。

13. 留意事項

分析社会学においてエージェント・ベースト・モデルは
重要な位置を占めていますが、ここではプログラミング
の講習は行いません。あくまで、それをどのように使う
かを紹介し、議論していきたいと思っています。また、
上でおもに「数理・計量研究」と表記しましたが、質的
研究や（バーバルな）理論研究者の方々も歓迎します。